
資料1

第2回検討会の討議事項について

前回の検討会における質疑応答（1）

議題	質疑		回答
	委員名	内容	
(1)	森口	事業の開始が秋からになるため、夏のデータが取得できないという課題に関する対応は。	<ul style="list-style-type: none"> 本年度対象となる一般世帯のデータに関しては、データ対象期間を昨年の11月としており、夏期のデータ取得が可能である。
	小野田	HEMS事業における他省庁との動きとの連携は、どのように考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> 他省庁とも連携を図って進めていく。
(2)	小野田	本事業における付加価値の対象範囲はどこか。 ①節電 エネルギーマネージメントに含めるのか、付加価値とするのか。 ②課金 課金に使える情報としてHEMSを位置づけて事業を推進していくのか。 ③事業の対象範囲(家庭のみもしくはサプライチェーンも含む) ピーク時間帯にHEMS通じて情報を発信して動線を集中させて全体としてCO2を下げるという考えなども含めるか。もしくは家庭のみを範囲とするか。 ④通信規格 家庭のインフラ統合化の関連を検討するか。	①節電 ・節電に関しては直接的な目的とするわけではなく、省エネの結果節電につながるといった形で関連がある。 ②課金 ・課金に関しては検討内容には含まない予定である。 ・本年度ユーザーへのヒアリングを実施し、本内容が特に必要な項目と判断されれば次年度以降で検討したい。 ③事業の対象範囲 ・本年度は家庭にのみ注目して事業を行う。 ・④補助金の観点からECHONET Lite対応かどうかのみを現状調査項目の1つとして検討しているが、通信規格の詳細に関しては言及しない。
	上田	本事業において機器の販売、データの付加価値の議論はどの程度の比重か。	<ul style="list-style-type: none"> 機器の販売においては販売数の観点から現状調査のみ行う。 一方データの付加価値に関しては特にどのようなデータが取ることができればライフスタイルの低炭素化、事業者が利活用可能になるかを重視している。
	上田	現状調査では4P、企業へのヒアリングでは4Cを区分する理由は何か。	<ul style="list-style-type: none"> 4Pに関しては製品を企業側から俯瞰して見る分析と認識しているため現状調査の項目選定に使用した。 一方、4C分析はカスタマー側から製品を見る分析と捉え、今回のカスタマーである事業者側のヒアリング項目の設定に使用した。
	本藤	家庭におけるエネルギー情報の価値が低いと仮説を置く一方で、CO2削減アドバイスに関して分析を進めるとなっている。どのように捉えればいいのか。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には「削減アドバイスの向上」と「付加価値向上」の両方の観点が重要であり、これらの取り組みによる相乗効果で導入・継続利用が可能になると考えている。

※敬称略

前回の検討会における質疑応答（２）

議 題	質 疑		回 答
	委員名	内 容	
(3)	上 田	世帯のエネルギーデータの分析により、誰が使ったのかわかるのか。 また、男女や年齢などを波形分類できるか。もしできれば非常に価値が出てくる。	<ul style="list-style-type: none"> 現在の取得情報ではわからないが、本事業でモデル世帯から詳細な情報を収集し、結果を見ていきたい。
	岩 船	HEMSのどこまでの情報であればどこまでわかるかを明確にすべき。具体的には階層的な分類を行うべき。	<ul style="list-style-type: none"> 分析の結果として反映したい。
	森 口	<ul style="list-style-type: none"> HEMSのスペック調査はどういった情報を取得するか。 今年のモデル世帯ではどういった情報を取得するか。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料3-1の9ページに記載 資料3-2の20~22ページに記載
	喜連川	人間のダイバーシティが大きいため、モデル世帯の20サンプルでは少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はどのようなデータが欲しいのかを調査するため、20世帯に絞り込んだ。その結果を1000世帯につなげていく。 また、来年度以降で世帯数を増加させる予定。
	本 藤	HEMS機器を導入する事で、CO2削減行動に繋がるという点が見えない。	(次回検討会までに整理する 本資料4ページ参照)
	森 口	この部分に関しては次回までに事務局でまとめる。	

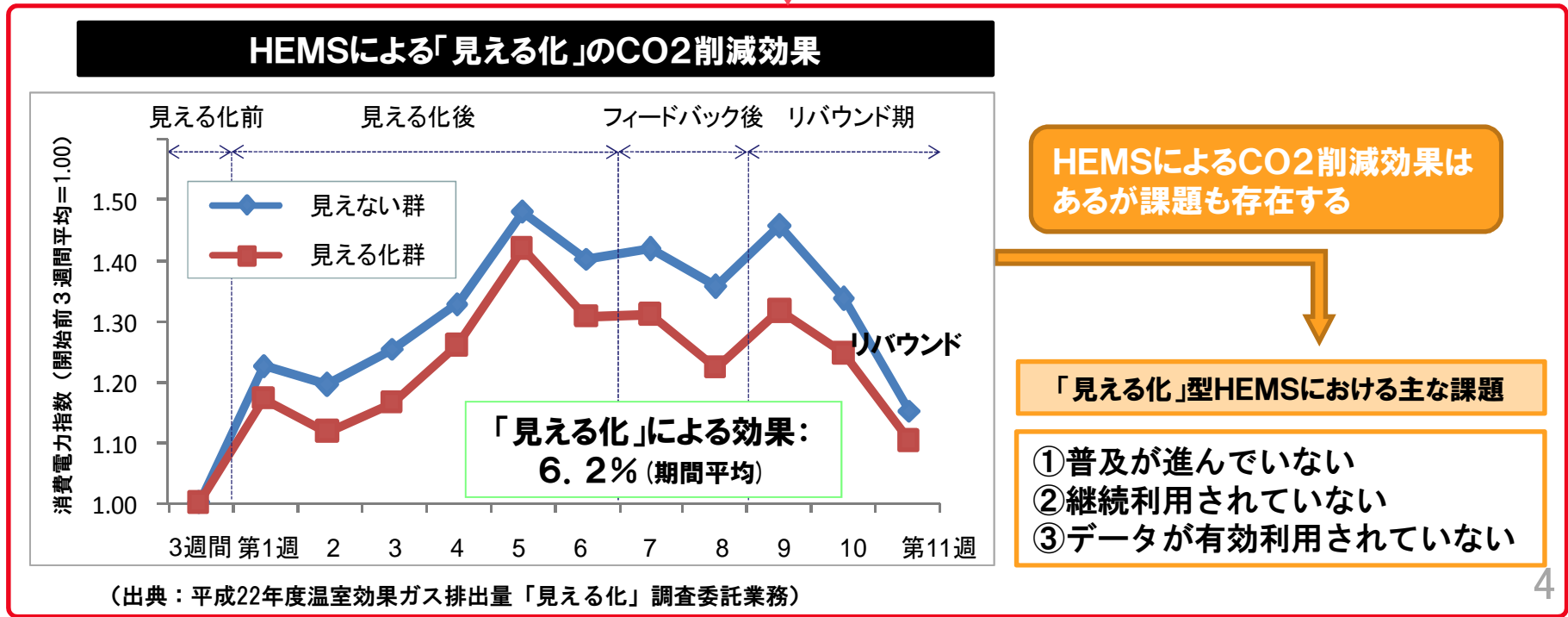
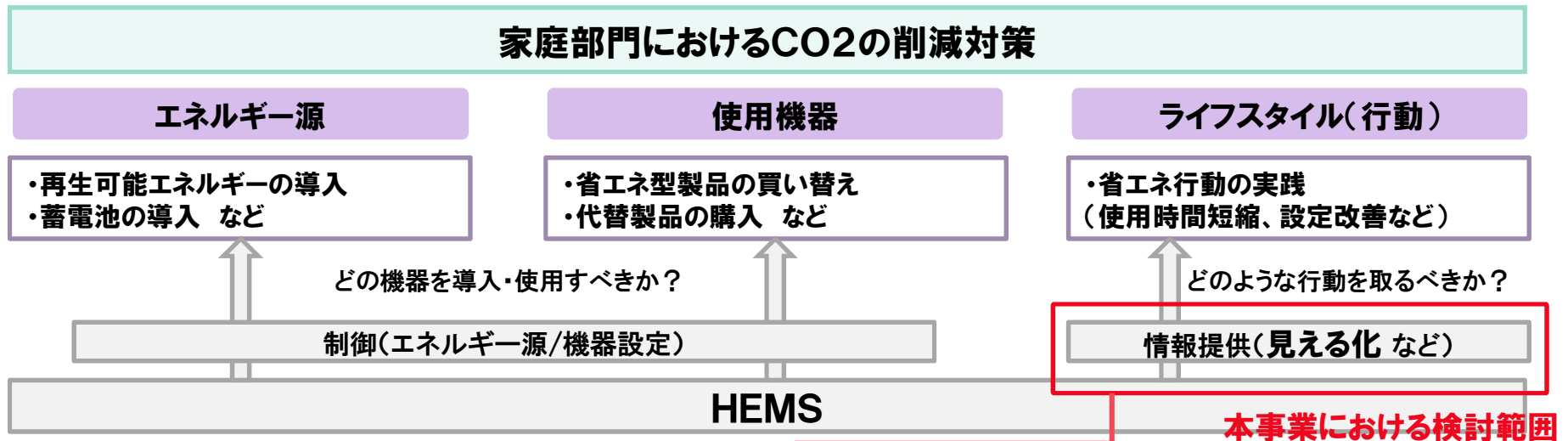
※敬称略

前回の検討会における質疑応答（3）

議題	質疑		回答
	委員名	内容	
(3)	小野田	パッケージ化された販売を行っているが、今の時点で機器や断熱性能など共通化されている項目を教えて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> 次回検討会までに整理する
	辰 巳	対象世帯が都道府県ごとにバラバラだが、地域の中で行うことで家庭同士の情報交換などの参加者間による介入が起こるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> 現状はバラバラであるが、来年度以降はそういったことも想定する。
	上 田	モニター20世帯に対して、深層心理面接から仮説を取り出し、1000世帯で実験を行い、HEMSを使って検証する事は考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> 深層心理に関しては知見を頂きたい。対面診断だと時間が限られてくるので、深層心理まで踏み込めるかはよく検討したい。 うちエコ診断自体が1つの仮説であり、どのようにHEMSで検証するのかが今回の事業になる。本年度は状況を把握し、来年度以降で介入の仕方でもう変わり、どのように比較するかを検討したい。
	小野田	年間ベースのデータ重要。例えば、エアコンを使い始める気温などの視点がいれられるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> 現在予定している機器だと湿度も取れる仕様になっている。詳しくは調べる。
	辰 巳	エアコンには湿度のほうが重要。湿度のデータは取れないか	
	本 藤	グループ1, 2は見える化のないオール電化の住宅か。	<ul style="list-style-type: none"> HEMSは設置されて表示はされるが、見せないという状態。アクセスログにより確認する。 過去のログを確認できるため、それが活用可能。
	本 藤	データ取得前にHEMSを設置していると、既に行動変容があり、ベンチマークとして使えないのでは。	
	那須野	グループ3ではHEMSを利用するとなっているが、実際に見ているかどうかをどのように把握するのか。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の検討事項としたい
森 口	HEMSの利用の有無はどのように取得するか。	<ul style="list-style-type: none"> アクセスログで確認する。 	

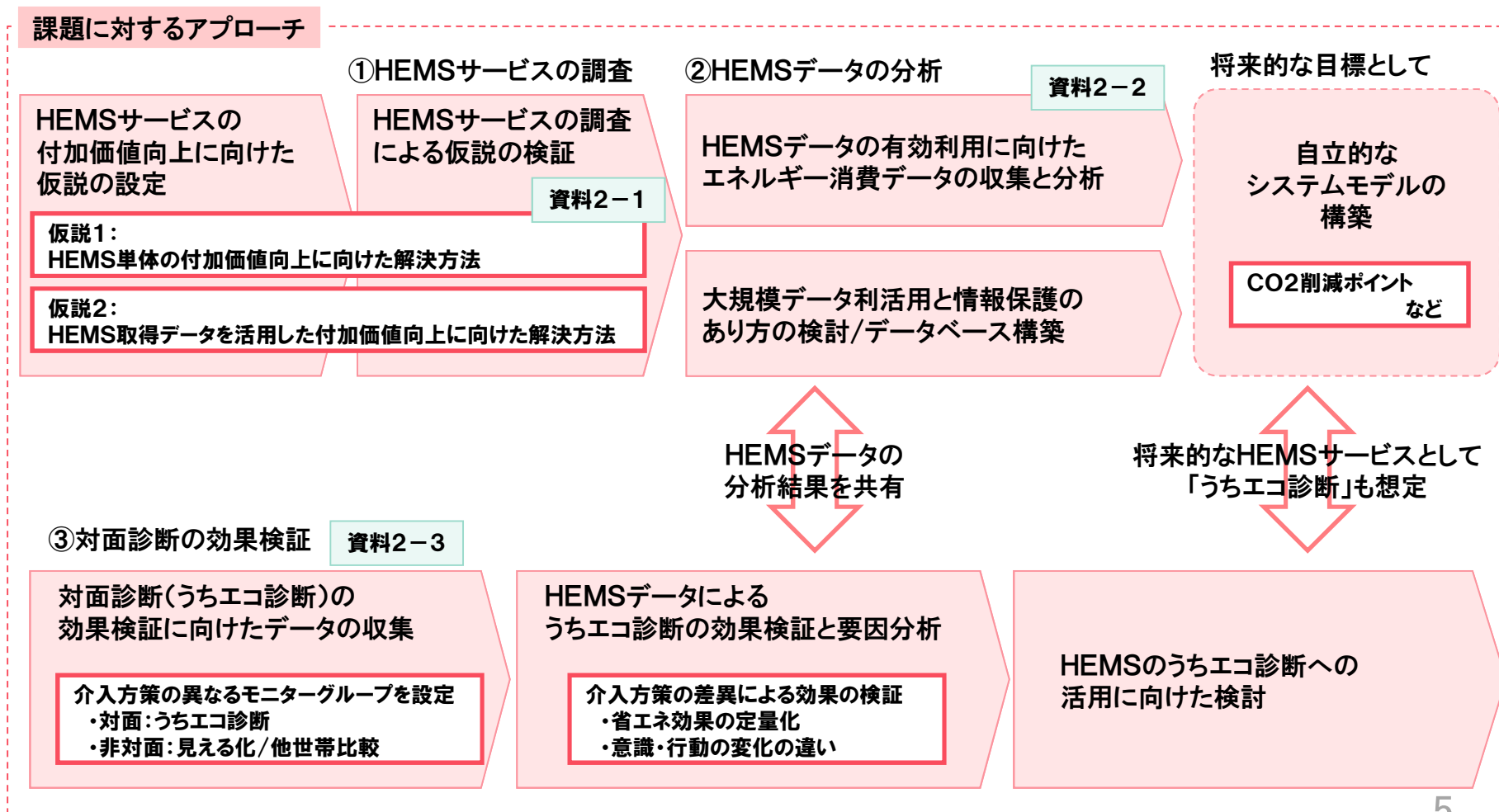
※敬称略

事業の背景とHEMS導入の必要性



事業概要

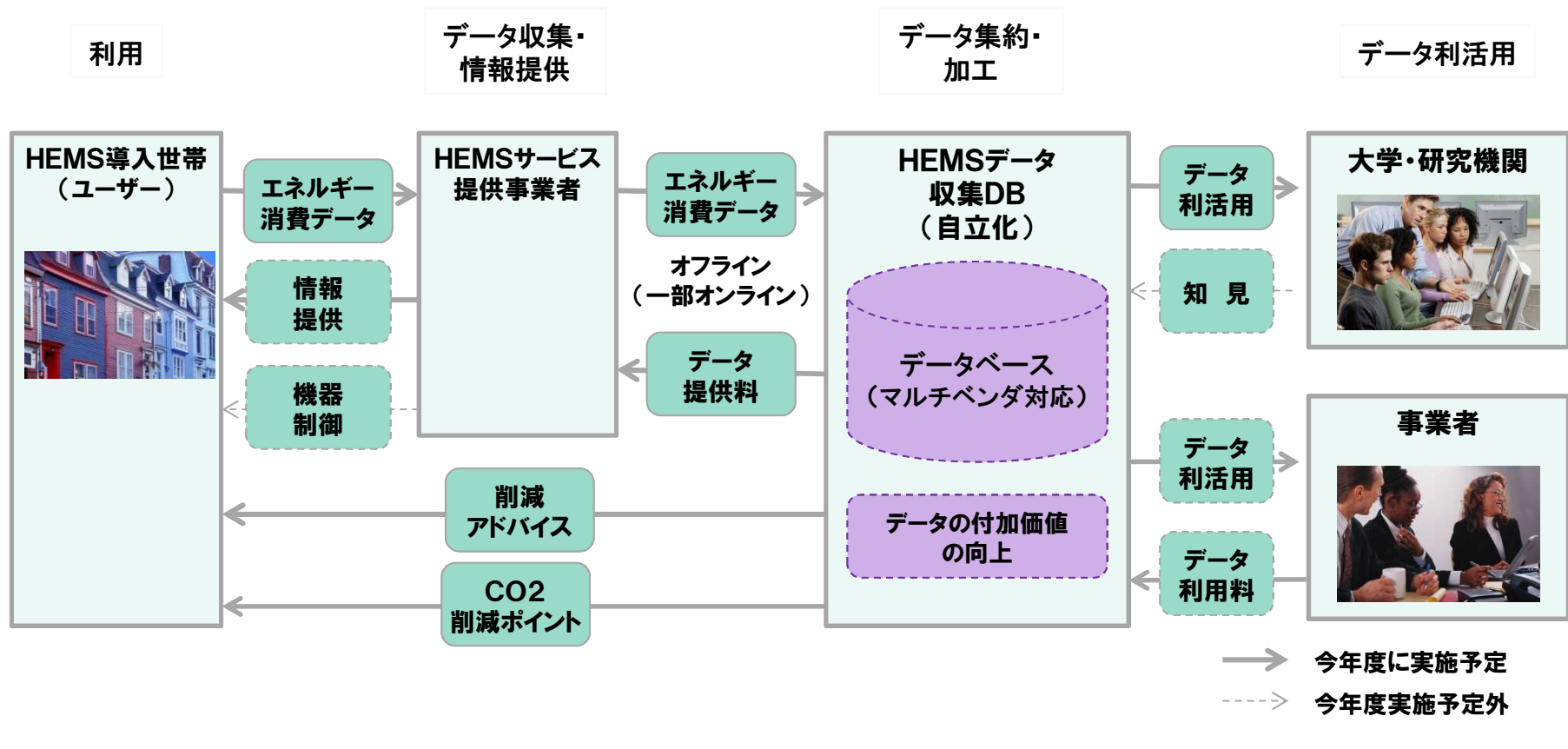
- 本事業においては、HEMSにおける課題解決に向けて①HEMSサービスの調査、②HEMSデータの収集・分析・利用方法の検討を行う。また、将来的なHEMSサービスとして対面診断も加えることも想定し③対面診断の効果検証を通して、HEMSデータの有効活用に向けた検討を行う。
- これらの検討を並行して推進するとともに、必要に応じて実施結果を連携することとする。



事業が目指す姿

本事業で想定する最終的な仕組みは、家庭における低炭素なライフスタイルへの変革・定着を促すため、CO2削減行動をHEMSにより定量評価し、評価に応じてインセンティブを与えるシステムモデルを早期に構築することである。(インセンティブの原資は、事業者からのデータ利用料から得ることを想定)

想定する仕組み



検討会日程・討議事項

	開催時期	討議事項(案)
第1回	9月21日(金)	<ul style="list-style-type: none">▪ 平成24年度HEMS利用の価値向上のための調査事業について▪ HEMS利用の付加価値向上に資する仕組みの構築のための調査について▪ HEMSデータの有効利用に向けたエネルギー消費データの収集と分析について▪ 対面診断におけるHEMSを活用した効果検証について
	実施済み	
本日	11月14日(水)	<ul style="list-style-type: none">▪ HEMSサービスの調査結果の中間報告<ul style="list-style-type: none">➢ WEB, カタログによるHEMSの調査結果について▪ HEMSデータ取得状況の報告および分析の方針▪ 対面診断におけるHEMSを活用した効果検証について<ul style="list-style-type: none">➢ モニターグループの選定および診断申込状況➢ 効果検証に向けた分析方針
第3回	1月中旬	<ul style="list-style-type: none">▪ HEMSデータ分析の進捗状況の報告▪ 分析したデータの有効利用に向けた事業者へのヒアリング結果▪ HEMSデータのオンライン連携テストの進捗報告▪ 対面診断の効果検証の進捗報告
第4回	3月上旬	<ul style="list-style-type: none">▪ 最終結果報告▪ 来年度の取り組みについて

事業スケジュール

実施項目		2012年					2013年		
テーマ	項目	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①HEMS利用の付加価値向上に資する仕組みの構築のための調査	HEMSサービスの付加価値向上に向けた仮説の設定	HEMS現状調査							
	HEMSサービスの調査による仮説の検証	仮説設定							
		ユーザー・事業者へのヒアリング							
					仮説検証				
②HEMS利用によるエネルギー消費データの分析	HEMSデータの有効利用に向けたエネルギー消費データの分析	HEMSデータの収集							
	大規模データ利活用と情報保護のあり方の検討 / データベース構築	分析計画の策定					HEMSデータの分析		
		データベース構築					オンライン連携テスト		
		ガイドライン作成	WGトライアル	WG	課題整理				
③対面診断の効果検証	データの収集	HEMSデータの収集							
	効果検証/要因分析		モニター募集	診断実施	HEMSデータおよびアンケートデータの分析				
	HEMSの活用検討				WEB診断の有効性の検証				
検討会の実施			①		②		③		④

WG ワーキンググループの開催